

イラストレイテッド泌尿器科手術 第2集 図脳で学ぶ手術の秘訣

加藤晴朗 著

＜書評者＞ 寛 善行（香川大学教授・泌尿器科学）

これは通常の手術書とはまったく異なる，加藤晴朗先生の歴戦記ともいえる書である。

昨今は腹腔鏡手術の頻度が増え，手術前後の予習・復習は自分やほかの術者の動画を利用される先生方が多いと思う。加藤先生自身も動画による予習・復習の効果を大いに認めておられる。一方，本書はすべて開放手術に関する加藤先生の豊富なイメージ図により構成されている。もちろん動画とはまったく異なる教材であるが，手術がいくつかの場面に切り分けられ，設計図を見ているような心持ちにさせられる。

加藤先生は，術者は手順に沿った場面ごとのイメージ図を徹底的に暗記して手術に臨むべきだと述べておられる。このような考え方は，漫然と開放手術をしていた時代よりも，腹腔鏡手術の時代になってむしろ意識されるようになったコンセプトではないだろうか。要するに1つひとつの作業にけりをつけて前へ進むやり方である。

多くの手術書は標準的な解剖学

的事項に基づいた，最もスムーズに進行した手術を想定したイラストと記述で構成されている。個々の症例でのバリエーションや障害は各自が臨機応変な対処を行いなさい，といういわば総論を提示し，各論は読者にお任せするスタンスである。本書はそれとはまったく逆の切り口になっていて，全編これ各論，という編集スタイルである。これを単なる症例の記録ではないかと批判される方もおられるかもしれない。しかし，私はそうは思わない。ある程度の経験を積んだ指導医クラスの先生方にも読み応えがあり，刺激的な手術書である。開放手術に対してあらためて意欲をかき立てられる内容といえる。1つひとつのイメージ図はプロの画家に依頼された妙にリアルなものとは異なり，どこか Dr. Blandy の手術書に通じる線描画である。各臓器には元々輪郭はないのであるが，加藤先生の経験と自信に裏付けされた線で区切りや仕分けがなされている。

元々前作が発刊されたときには第2集は予定されていなかった

ため，初回本では第1集とは命名されていなかった。あまりに評判が高く，なおかつ加藤先生の飽くなき挑戦心と職人魂により次々とイメージ図が集積され，とうとう今回の第2集の発刊に至ったようである。第1集と膀胱全摘や前立腺全摘などのテーマは重複しているが，中身は少しずつ異なっていて，加藤先生自身の経験の蓄積も垣間みられる。また，第2集では腎部分切除術にかなりのページ数があてられており，大変参考になる記述が満載である。折りしも腎癌における部分切除の適応拡大が叫ばれている中，第2集の目玉ともいえる部分である。それら以外にも膀胱腔瘻や尿道断裂の手術など，各術者がそれほど多く経験できない困難手術にも紙面が割かれていて大変参考になる。

困難な手術を終えられた直後に，一心不乱になって手術を回想し，1つひとつ記録にとどめてこられた加藤先生の姿勢には脱帽するほかない。伊能忠敬の日本全土の地図作成に匹敵する根気と「図脳」力である。第3集，第4集が待望される。

●A4 頁352 2011年
定価 15,750円
(本体 15,000円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01103-7]
医学書院 刊